

# 試験研究成果普及情報

部門	麦及び雑穀	対象	普及
課題名:紫サツマイモ「関東117号」(パープルスイートロード)の奨励品種採用(予定)			
[要約]			
紫サツマイモ「関東117号」は、耐肥性並びに主要病害虫抵抗性が高く、収量及び外観品質が優れる。蒸しいもの食味は、紫いもの中で食味良好な「種子島紫」並みに良く、青果用としての奨励品種に採用する予定である。			
キーワード (専門区分)育種 (研究対象)いも類-サツマイモ (フリーキーワード)紫いも、アントシアニン、機能性、新品種			
実施機関名 (主査)農業総合研究センター北総園芸研究所畑作園芸研究室 (協力機関)農業技術研究機構中央農総研センター甘しょ育種研究室 (実施期間)2000年度～2001年度			

## [目的及び背景]

健康維持に良い機能性があるアントシアニン色素を多く含む紫サツマイモの普及を図るため、品種の検討を行った。「種子島紫」は食味が良いものの、形状不良や裂開発生など栽培面で問題があり、「アヤマラサキ」は食味が悪いことから青果用には不向きであった。

農研機構・甘しょ育種研究室(つくば市)で育成された「関東117号」は、2カ年の試作の結果、多収で食味が良く、外観品質が優れるなど青果用の紫サツマイモとして優れた特性を持つことが明らかになった。今後、本県の奨励品種とする予定である。

## [成果内容]

- 「関東117号」の形状は長紡錘形で、揃いが良い。皮色は明るい赤紫色で、目(毛穴)が浅く外観が良い。肉色は赤みのある均質な紫色である。裂開などの生理障害の発生は極めて少ない。育苗は比較的容易で、貯蔵性も特に問題はない。また、ネコブセンチュウ、立枯病及びつる割れ病に対する抵抗性が高い(表1)。
- 蒸しいもの肉色は紫色で、赤みは減少する。肉質はやや粘質で軟らかい。甘味は「種子島紫」並みで、「アヤマラサキ」より明らかに良い(表1)。
- マルチ普通掘り栽培における「関東117号」の収量は、「種子島紫」や「アヤマラサキ」に比べて多く、多収品種の「ベニアズマ」並みである。いもの外観が良く、商品性の高いA品収量も多い(図1、図2)。

以上の結果、「関東117号」は、紫サツマイモの中では栽培が容易な多収系統で、いもの外観並びに食味品質も優れ、青果向けに活用できる。

## [留意事項]

- 「関東117号」は、生産面では問題が少ないが、従来の市場出荷品に比べて、紫いもの利用場面が少ないため、その特性を活かした販路を確保する方策が必要である。
- いもの表皮に乾腐状の病斑が発現する場合がある。病原や発生要因は調査中である。

## [普及対象地域]

県下サツマイモ栽培地帯

## [行政上の措置]

県内の市町、農協、産直組織の8団体が許諾申請した。これらに園芸農産課(特産作物振興協議会)による展示圃を設け、試作と試販結果を踏まえて奨励品種採用の予定である。

## [普及状況]

上記の展示圃を通して、今後の普及を図る。

[成果の概要]

表1 特性調査結果

品種・系統	塊根								煮しいも				病害虫抵抗性*		
	形状	整否	皮色	肉色	条溝	裂開	皮脈	外観	肉色	肉質	食味	甘味**	和びつやう	立枯病	つる割れ病
関東117号	長紡鐘	整	赤紫	紫赤	無	無	無	上	紫	竹粘	中	3	竹強	強	強
種子島紫	紡鐘	否	濃赤紫	淡紫	少	多	無	竹下	紫	竹粘	中	3	弱	中	中
アナムラサキ	長紡鐘	中	暗赤紫	濃紫	無	無	多	下	濃紫	竹粘	下	1	中	中	強
ペニアズマ	長紡鐘	中	濃赤紫	黄	少	中	少	中	黄	粉	上	5	中	強	竹弱
高系14号	紡鐘	竹粘	赤紫	黄白	中	少	無	中	黄白	中	中	4	中	竹弱	弱

注、\* 育成地の資料を中心に作成した。

\*\* 食味調査の際に甘味の程度を1(少)~5(多)の5段階で判定した。

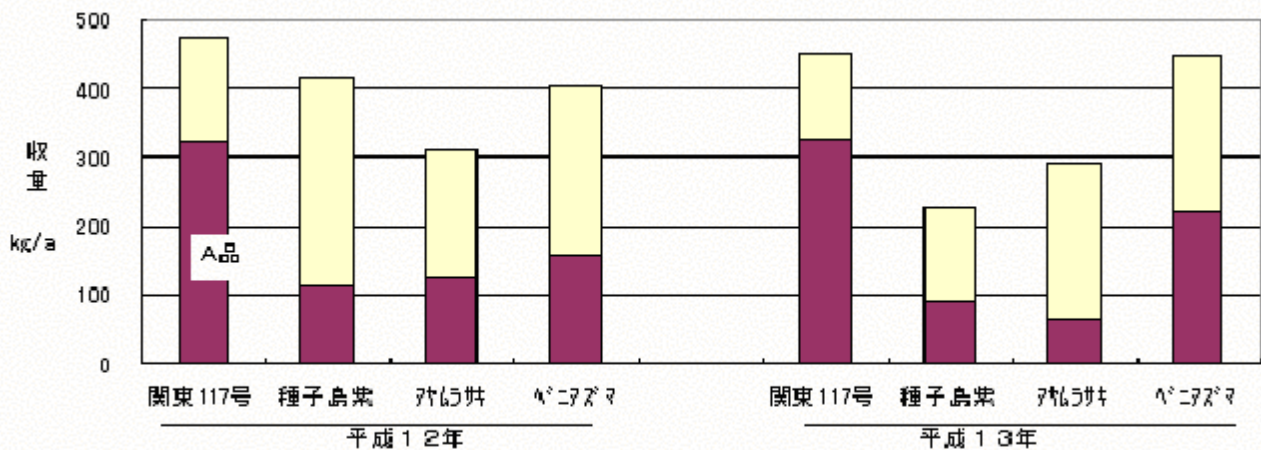


図1 マルチ普通掘り栽培における等級別収量の比較 (場内試験)

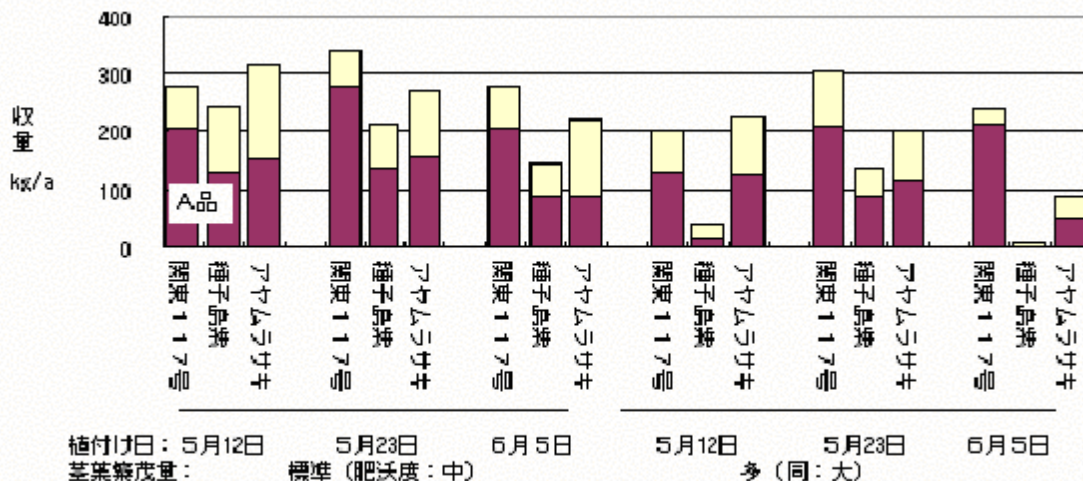


図2 現地における圃場及び植付け時期別の収量比較 (平成13年度、香取郡小見川町)  
注) 収穫日: 9月25日。栽培様式: 慣行マルチ栽培

[発表及び関連文献]

平成13年度試験研究成果発表会資料(畑作部門)p1~5(平成14年2月13日)